

氏 名	高柳 佑士
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第626号
学位授与年月日	令和5年3月17日
審 査 委 員	主査 教授 金崎 啓造
	副査 教授 長井 篤
	副査 准教授 兒玉 達夫

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

最終糖化産物（AGEs）は加齢や糖尿病血管合併症に伴って生体内に蓄積し、その病態の進行に関与することが明らかとなってきた。糖尿病網膜症は代表的な糖尿病血管合併症であり、失明の主要な原因の一つであるが、これとAGEsとの関係については未だ十分に明らかとなっていない。そこで申請者らは、本邦で臨床応用されているAGEsセンサを用い、指尖皮膚自己蛍光（AGEsスコア）と糖尿病網膜症病期の関連に関して臨床的評価を行った。

非糖尿病患者165人、糖尿病患者229人を対象として、AGEsスコアを測定したところ、糖尿病患者においてAGEsスコアは高値であった。AGEsスコアを四分位に分けた検討では、AGEsスコアが最も高い群で増殖糖尿病網膜症を有する割合が高かった。また多変量解析においても、糖尿病網膜症の有無はAGEs高値と関連しており、AGEsスコアは増殖糖尿病網膜症の発症における独立寄与因子であった。AGEsセンサを用いた臨床的知見は十分ではなく、本研究の研究評価手法として新規性が高いと考えられた。

本研究から得られた申請者らの学術知見は、糖尿病網膜症患者における診断および治療に有用と考えられ、基礎医学的・臨床的にも今後発展性を有すると判断する。